

## V10a VERA 水沢局の性能について

亀谷 収、佐藤克久、小林秀行、笹尾哲夫、柴田克典、川口則幸、堀合幸次、酒井悺、久慈清助、本間希樹、田村良明、岩館健三郎、浅利一善、宮地竹史、寺家孝明、氏原秀樹、小山友明、官谷幸利 (国立天文台)、廣田朋也 (鹿児島大理) VERA グループ

VERA 水沢局は、2001年3月に完成した後、立ち上げ試験観測が進んでいる。単一鏡としての性能出しは、2001年10月から始まった。3月の22GHz帯(Aビーム)によるアンテナの中心点でのポインティング観測がほぼ終了し、第一段の器差ファイルの作成が終了した。その後、4月-6月にかけて22GHzおよび43GHz帯についてデータ取得を続けている。これまでのところ、残差7"rmsで天体を追尾可能になっている。また、22GHz及び43GHz帯のアンテナ効率の測定の結果、設計値と矛盾しない結果が得られている。その他、水沢局では、主に入来局との間で22GHz帯、43GHz帯のVLBI観測に成功している。また、測地観測やRISE観測等の目的の為にS/X帯の設置性能出しも行なっている。さらに、VERA独自システムである2ビーム同時受信システムを使った同時受信と2ビーム同時VLBIにも成功した。本講演では、それらの結果の詳細を報告する。